猿新聞

編集・発行
山村　準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

個体の適正化
山肉料理で村おこし

シカは有史以前から狩猟対象であり、古くから人間とかかわりのある動物です。

古くから肉が食され、毛皮も利用されていました。資源として高い価値があるため、昭和初期、捕り過ぎによりニホンジカが絶滅寸前となったため、保護政策が実施されてきました。

その結果、各地でシカの増えすぎによる生態系被害が深刻化しています。

現在、行っている農地への侵入を物理的に防ぐ対策では、大きな効果もなく、今後の期待が持てません。

国の方でも野生鳥獣に対して保全から管理に舵を切り替えています。

これからは、対策の一環として捕獲に力を入れ生息密度の適正化を図る時期だと考えます。

現在では、猟師の高齢化などで狩猟人口は激減し、毎年増える個体数すら捕獲できない現状では減少傾向は見られません。

ニホンジカの捕獲については、鉄砲以外にも様々な方法があります。「くくりわな」、「はこわなな」どの従来の捕獲方法です。これに加えニホンジカを大量捕獲する取り組みが各地で進められています。その一つに「シカ捕獲装置ドロップネット」があります。

これは、高度な狩猟技術が必要なく集落住民が中心になって取り組める捕獲装置です。だが、これにも狩猟資格などが絡んできますので猟友会の指導、協力が必要なことは言うまでもありません。

捕獲したシカを地域固有の特産物として捉え、それを山肉（ジビエ）として活用普及する方法が考えられます。

ジビエという言葉は、日本人にはあまり馴染がなく、獣肉を食べることも全般的に普及していません。

シカの捕獲時の処理やシカ肉の処理過程での衛生管理を高め、有効に活用していくためのガイドラインを策定し、「山からの贈り物」として地域にジビエ料理を普及、定着させていきます。

シカを獲り、食べることで、農林業被害が守れれば一石二鳥です。しかも、これは、地域活性化にもつながります。

しかし、ジビエ料理振興のためには、行政と民間の力強い連携が必要なことは言うまでもありません。

すでに、滋賀県内の「CoCo壱番屋」では、天然シカ肉を使ったカレーをオリジナルメニューとして販売し、現在では需要と供給のバランスとれ、ちょっと変わった味覚が人気を集めています。

野ネズミ対策
石灰窒素散布

今年は、私の畑のサツマイモは不作でした。

それに追い打ちをかけるように、掘っても掘ってもネズミの「食いさし」ばかり！！。（写真左）

ネズミは繁殖力が旺盛で、世界中のあらゆる場所に生息しています。

ネズミの被害くらいと侮ってはいけません。敵は集団で数にまかせて被害を出します。

防除には石灰窒素の散布が効果があるそうです。

石灰窒素から発生するガスで、畑に寄りつくネズミ・モグラに効果。

先人から学ぶ
獣害対策

現代では様々な獣害対策商品が開発されていますが、昔の農民はどのように野生動物から集落の作物などを守ってきたのでしょうか。

歴史をさかのぼると、獣害に悩まされていた先人たちの涙ぐましい努力が見えてきます。

食料が豊富でなかった時代に、イノシシの被害を受けることは死活問題につながりました。

江戸時代中期の八戸藩では凶作に加え、イノシシとシカの被害によって飢饉さえ起きています。

先人とイノシシの戦いの跡が全国各地に点在していますが、その一つに「猪鹿垣」（ししがき）があります。

「猪鹿垣」とは、耕地の周囲を木柵土塁、石垣などで囲み野獣の侵入を妨げる設備のことです。

広大な地域を防御しようと多くの村落が連合、協力して「猪鹿垣」を築設するという動きは江戸時代の中期から始まっています。

特に目を引くのは、江戸時代の小豆島でつくられた「猪鹿垣」です。

小豆島でも古くからイノシシによる農作物の被害が深刻だったようで、江戸時代中期には島内のいたるところに「猪鹿垣」をつくり、寛政2年、島全域に120キロに及ぶ「猪鹿垣」を完成させています。

重機のない時代に大きな石を採取・運搬し、積み上げていく作業には、多くの人手と時間が必要であったと思われます。

死活問題に直結するとはいえ、現代を生きる私達にはその苦労は想像すら出来ません。

今の私達から見れば、攻め寄せてくる獣を防ぐためのものに思えますが、その規模の長大さから見て、先人たちは、棲み分けの手段を模索して居たと考えられます。

江戸時代、幕府（行政）も力を入れており、将軍綱吉による生類憐みの令の時代ですら、「脅し鉄砲」や獣害駆除に使用するための大量の火縄銃が村々に貸し出されていました。

死活に関わる問題とはいえ官民一体化した体制を彷彿とさせます。

忍耐と努力で身を粉にして働いてきた先人のお陰で、現在があるということを私達は忘れてはなりません。

現在出回っている獣害用グッズのなかにも、先人の苦労の結晶から産まれたものが多く見られます。彼らが残してくれた忍耐と努力を教訓として、私達は今後獣害に取り組んでいかねばなりません。

写真上＝矢川の猪鹿垣

NHK奈良
モンキードッグ
地域との交流

9月30日NHK奈良が「モンキードッグと地域の交流」というテーマで取材。

取材は、モンキードッグ団十郎のパトロールコースで行われました。

被害状況やモンキードッグの効果、今後の課題など取材。

関西エリアの朝の番組「おはよう関西」で10月3日放映されています。

サルの出没状況
名張A・B群

10月の移動状況は、A・B群共にエリア内を偏ることなく遊動しています。

しいて言えば、A群は青蓮寺湖周辺、B群は伊賀竜口周辺に多く出没しています。被害の方は、柿の被害が目立つようです。

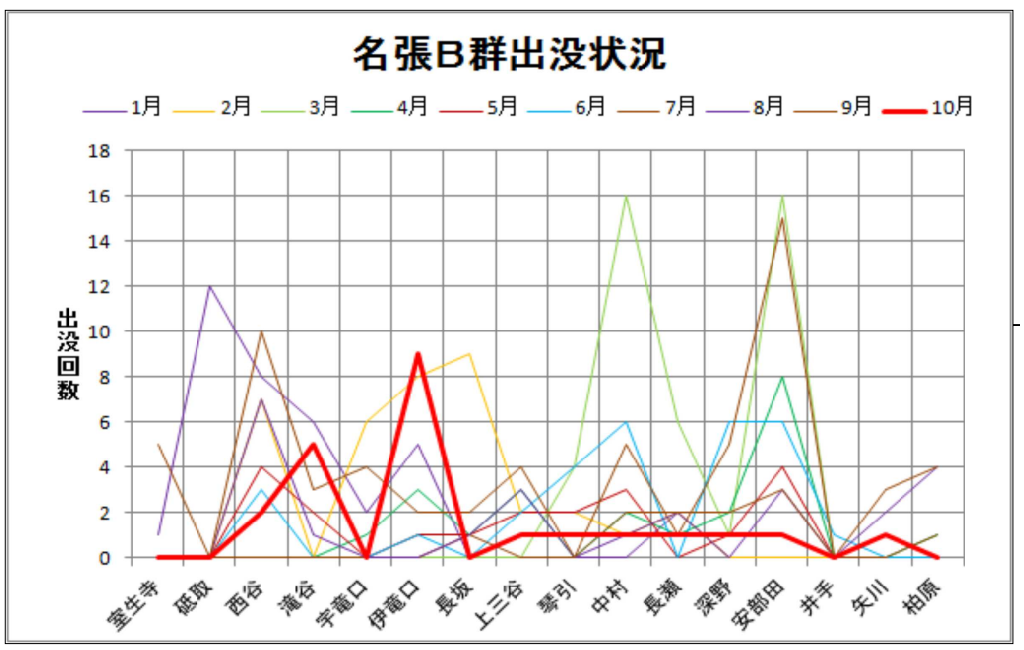
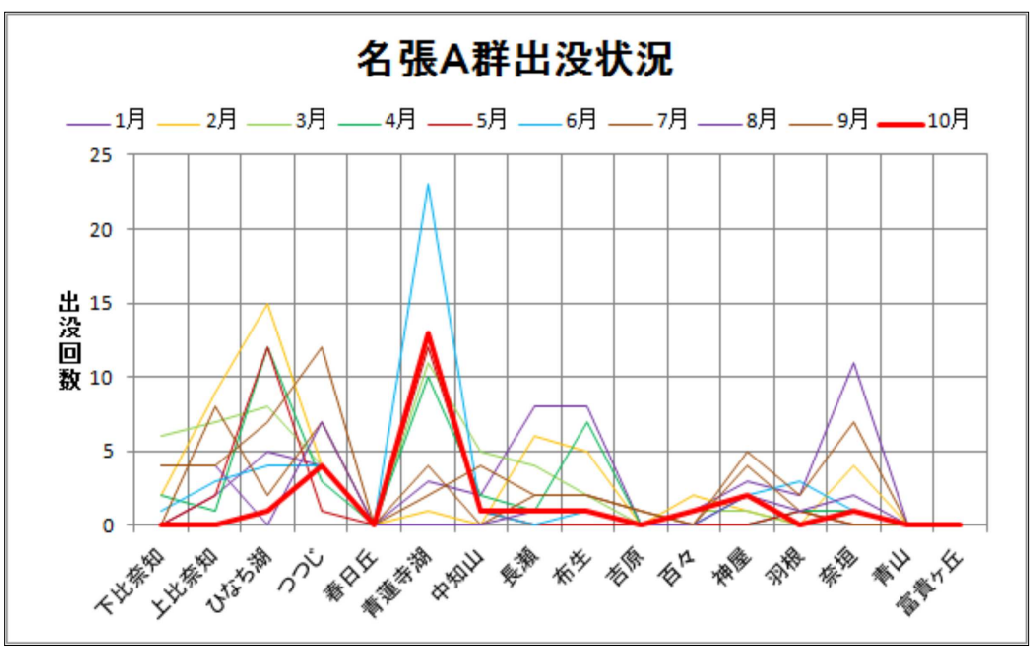
柿の「捨て作り」はサルや野鳥の餌付けです。一つ残さず収獲しましょう。

指南員報告

10月のサルの動向

A群は遊動域のほぼ全域を遊動していたようですが、特に青蓮寺ダム周辺への游動が多かった。

B群は、後半の一時期を除いて、国道165号線の南側を万遍なく遊動していました。

食餌傾向は、先月と同様、栽培天然にかかわらず、果実食が中心で、カキは、各地で相当被害があったようです。

今月も、ヌルデの虫こぶ（アブラムシ）は、各地で食べられていました。